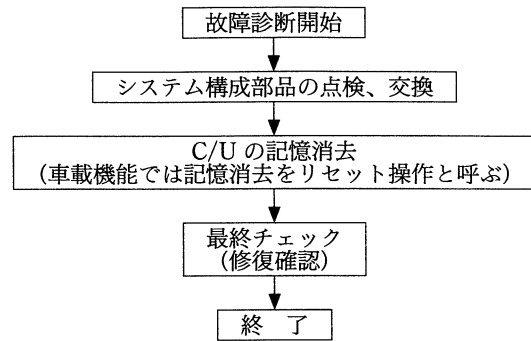


故障診断

故障診断はエアバッグ警告灯による故障診断（車載機能）と CONSULT による故障診断がある。

CONSULT 又は車載の故障診断機能を用いて以下の手順で診断を行う。



注意：・最終チェック時、CONSULT によりコントロールユニット不良と表示があった場合には、コントロールユニットを交換し、再度点検すること。

また、車載機能でリセット操作しても警告灯が点灯する場合もコントロールユニットを交換し、再度点検を行うこと。

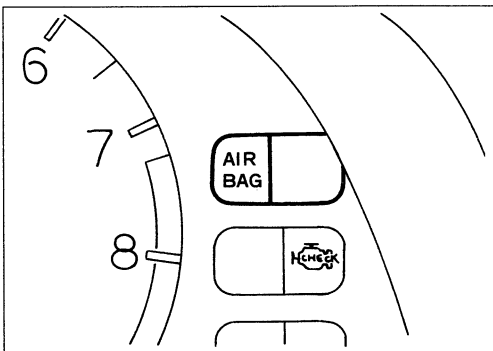
・衝突により SRS エアバッグが作動した場合のコントロールユニットは、スパイラルケーブルも含め再使用できない。

エアバッグ警告灯による故障診断（車載機能）

エアバッグ警告灯による表示

- ・ユーザーモード
- ・故障状態モード
- ・故障記録モード

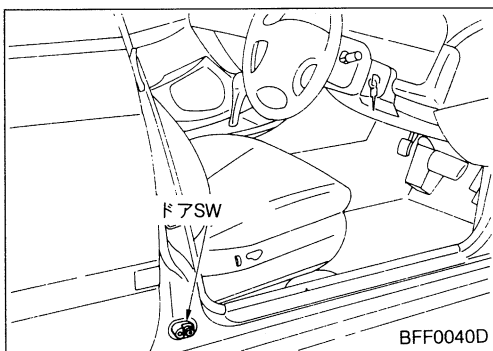
の3種類のモードがある。



表示モードの切り換え

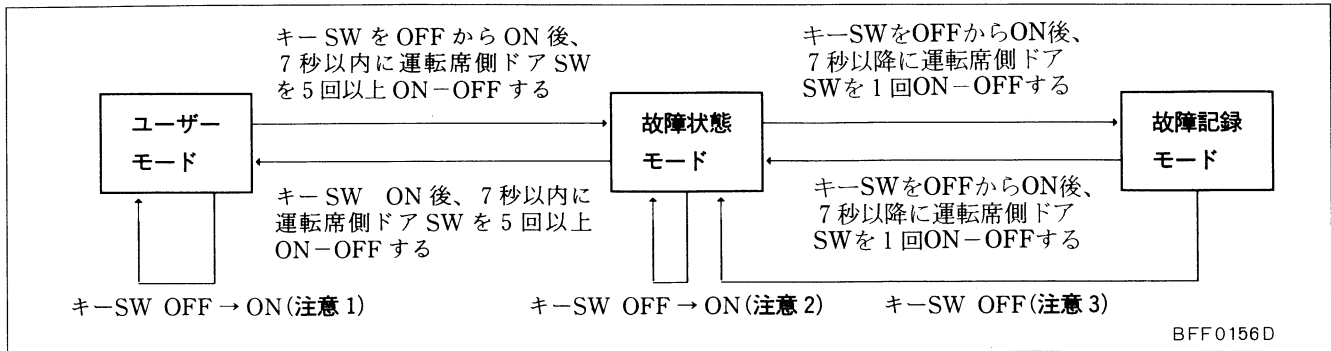
表示モードの切り換えはキースイッチと運転席側のドアスイッチの操作で行う。

故障状態モード及び故障記録モードで故障診断を実施した後は、必ずユーザーモードに表示モードを切り換えること。



SRSエアバッグ

エアバッグ警告灯による故障診断 (続き)



注意 1：ユーザーモード時にキースイッチを OFF から ON にすると表示モードは切り換らずユーザーモードでの表示となる。

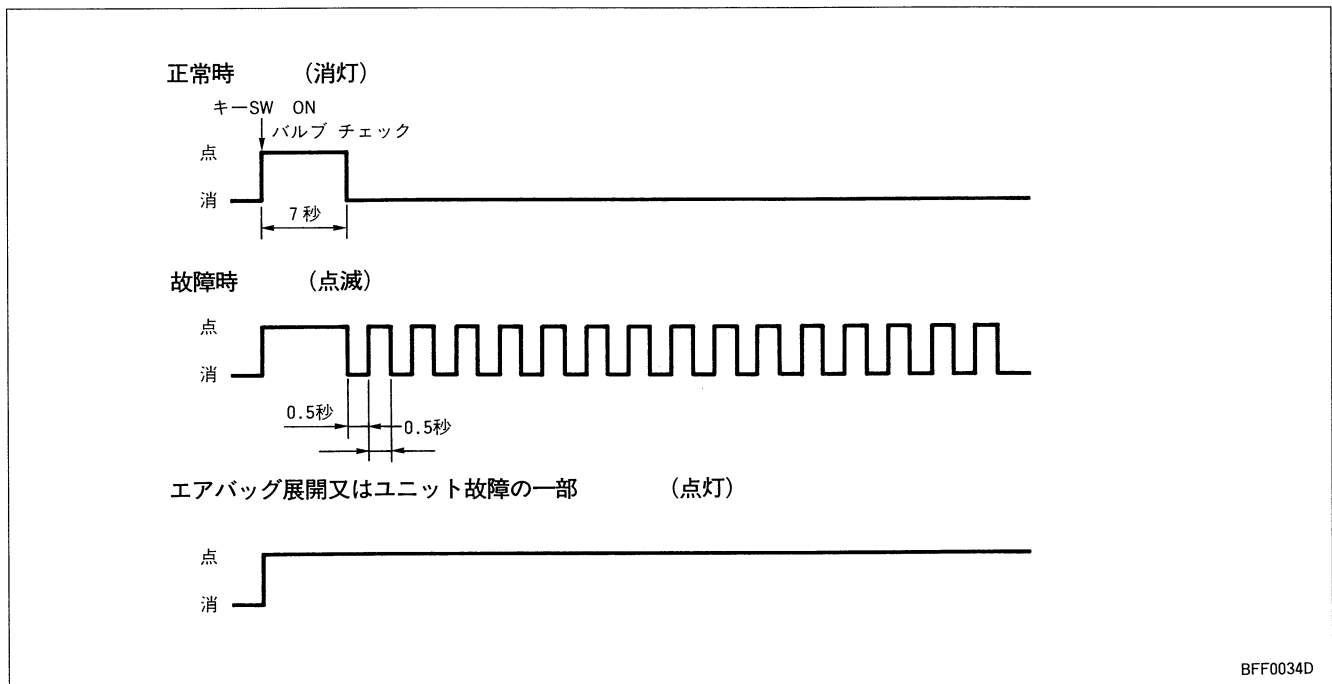
注意 2：故障状態モード時にキースイッチを OFF から ON にすると表示モードは切り換らず故障状態モードでの表示となる。

注意 3：故障記録モード時にキースイッチを OFF から ON にすると表示モードは故障状態モードの表示に変わる。

ユーザーモード

ユーザーモードはユーザー使用時のモードで、以下の表示を行う

- ・ 正常……………キースイッチ ON 7 秒後に消灯
- ・ 故障……………キースイッチ ON 7 秒後に点滅
- ・ エアバッグ作動又は
コントロールユニット故障 (一部) ……キースイッチ ON で点灯



注意：・故障表示 (点滅、点灯) はリセットされるまで保持される。


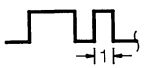
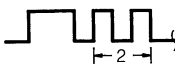
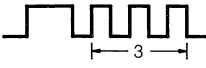


- ・リセット操作は修理完了後、故障状態モードからユーザーモードに戻すことによって行われる。(コントロールユニットの記憶消去)

SRSエアバッグ

エアバッグ警告灯による故障診断 (続き)

故障状態モード

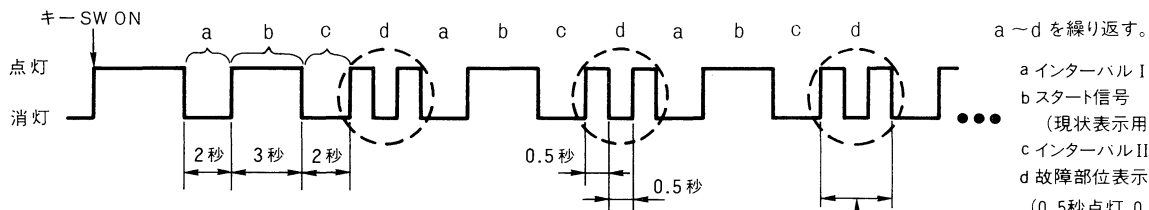
故障状態モードは現状の故障状態を表示するモードで、下表に示す系統の故障を検出し、故障部位を警告灯の点滅回数により表示する。

系 統 (故障部位)	診 断 項 目	警告灯点滅回数
故障部位なし	正 常	点 消  点滅0
セーフティンセンサー	断線、下流側アースへのショート	
	線間ショート、下流側電源へのショート	
インフレーター (エアバッグモジュール)	断 線	
	電源へのショート	
	アースショート	
トンネルセンサー	断線、上流側電源へのショート	
	線間ショート	
コントロールユニット	ユニット故障 (補助コンデンサー容量、 電源電圧異常、ダイオード故障、その他)	
その他	部位規定できず (含む複数故障)	

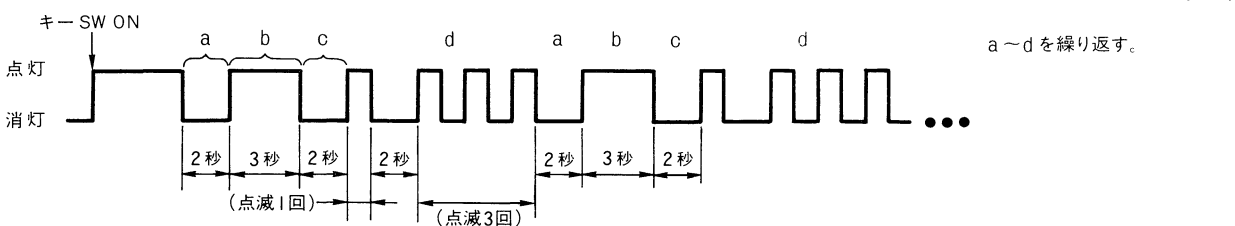
BFF0030D

表 示 例

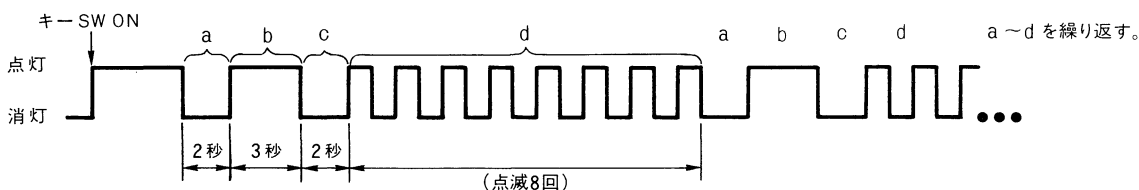
① 故障部位が1ヶ所の表示 (インフレーター系が故障の場合)



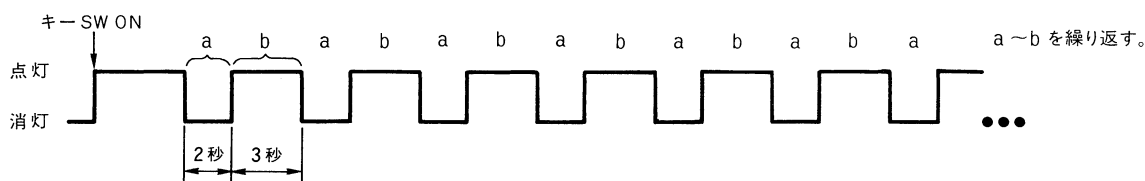
② 故障部位が複数の時の表示 (セーフティンセンサー系とトンネルセンサー系が故障の場合) (点滅2回)



③ 故障部位が規定できない時 (含む複数故障) の表示



④ 正常時の表示



BFF0151D

故障記録モード

故障記録モードは第1回目（最初に発生した）故障部位を表示し、下図に示すように、スタート信号b'以外は故障状態モードと同じ表示方法になる。

参考：故障状態モードで「部位規定できず（含む複数故障）」と診断された場合に、このモードに切り換えると初期発生の故障部位が規定されるので、2つの故障が同時発生している場合の整備に有効である。

表示例

